

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																	
日本電子専門学校		昭和51年9月10日	船山 世界	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																	
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人電子学園		昭和38年12月17日	多 忠貴	〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																
工業	工業専門課程	Webデザイン科	平成18(2006)年度	-	平成25(2013)年度																
学科の目的																					
クライアントの要求に応じた商用のWebサイトやWebアプリケーション、Webサービスの企画・設計・実装が出来る実践的なWebクリエイター(Webディレクター、Webデザイナー、UI/UXデザイナー、フロントエンドエンジニア、サーバーサイドエンジニア)の育成を目的としています。																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)																					
【取得可能な資格】 色彩検定/情報デザイン試験/ウェブデザイン技能検定/ビジネス能力検定(B検)																					
【在学の状況】 令和5年4月1日時点において、在学者76名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者82名(令和6年3月31日卒業者を含む)																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技													
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,710 単位数時間 単位		420 単位数時間 単位	240 単位数時間 単位	1,050 単位数時間 単位	0 単位数時間 単位	0 単位数時間 単位													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																
60人	69人	27人		39%	18%																
就職等の状況																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■卒業者数(C) 34人</li> <li>■就職希望者数(D) 32人</li> <li>■就職者数(E) 32人</li> <li>■地元就職者数(F) 32人</li> <li>■就職率(E/D) 100%</li> <li>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 100%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 94%</li> <li>■進学者数 1人</li> <li>■その他</li> </ul> <p>就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和元~5年度卒業生) ミツエーリンクス、メンバーズ、ビットエー、京セラコミュニケーションシステム(KCCS)、ポニーキャニオン、アルビッドジャパン、ワーブジャパン、ブランジスタソリューション、サンシーア、UNIT2、SoLabo、スパイス、インテグラル・ソリューションズ、タフサービスエンジニアリング、フルタステクノロジー、LG、アスパーク、TSUKU TSUKU、アイ・ディ・エイチ、スターキッド、テイルウインドシステム、ムーンラビット、ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所、ドリームキャリア 等 Web業界</p>																					
第三者による学校評価																					
<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構      受審年月: 令和5年3月31日      評価結果を掲載したホームページURL: <a href="https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/">https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/</a></p>																					
当該学科のホームページURL																					
<a href="https://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/">https://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/</a>																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)																					
(A: 単位数による算定)																					
<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,710 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>270 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,710 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>270 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位数時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位数時間</td></tr> </table>								総授業時数	1,710 単位数時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位数時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位数時間	うち必修授業時数	1,710 単位数時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	270 単位数時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位数時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数時間
総授業時数	1,710 単位数時間																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位数時間																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位数時間																				
うち必修授業時数	1,710 単位数時間																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	270 単位数時間																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位数時間																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位数時間																				
(B: 単位数による算定)																					
<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	単位																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																				
うち必修授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																				
教員の属性(専任教員について記入)																					
<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人		
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																				
計	4人																				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数																					
2人																					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	①
久山 和宣	株式会社 ベースメントファクトリープロダクション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	③
船山 世界	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	
小山内 靖美	日本電子専門学校 Webデザイン科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月08日 14:00～16:00 開催

第2回 令和6年2月21日 14:00～16:00 開催

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

### 【議題1】

WebアプリケーションⅡでは2~3名のチームでWebアプリ開発を行っています。

本授業は、現在React NativeやAPIを利用した開発を中心に実施しています。しかしながら、クラス内には、プログラムに拒絶反応を示す学生や、言われたことしか出来ない学生(写経)も多く、その結果、アプリが未完成な仕上がりになっているのが現状です。

プログラム教育を行っていく上で、プログラムの苦手意識を軽減させたいと考えています。

現在、短期間で柔軟性が高い開発が行え、高度な専門スキルを必要としないローコード開発やノーコード開発が注目されていると思います。そこで、段階的にプログラムの組み方(アルゴリズム)を身につけるために、ローコードツールやノーコードツールなどの導入を検討しています。

また、現在注目されているローコードやノーコードのアプリ開発ツールなどを教えてください。

### 【意見】

・会社ではノーコードツールはデザイン側からの制作アプローチとして利用している。

・ノーコードツールの利用として、クライアント側にプレゼンテーションするためのプロトタイプ制作までとしている。実装では利用できる機能の制限があるため利用していない。

・プログラミング初心者に対して、プログラムのハードルを下げるためScratchなどを利用しモノづくりの楽しさを体験させモチベーションを上げるのには良いと思う。

・プログラムを苦手としている学生に対してローコードやノーコードツールを利用しても根本的な問題解決に繋がらないと思う。

### 【活用】

今回のご意見を受け、プログラムが苦手としている学生に対してローコードやノーコードツールを利用するのではなく、従来のプログラム教育を学習状況の把握と評価方法を見直すことが必要と感じた。これまでは、課題を提出されたことだけで、学生個々のプログラムの理解度を測っていた。現在、課題内容の見直しと理解度確認方法について再考しながら下記を実施している。

#### ●従来

文法説明→例題→演習問題→課題提出

#### ①問題

提出された課題は、クラスメイトと協力して完成させたものを提出されているため、個々の理解度を完全に把握することが出来ていない。

#### ②対応:

授業の説明時に演習問題等に対する学生の向き合い方やアウトプットされたものを観察して、理解していないであろう点を再度説明するなどをしてきた。とはいえ、理解度を具体的に測ることは難しく、担当している複数の教員同士でも担当教員ごとで対応が異なり、学生の理解度を共有化することさえできていなかった。

#### ●変更

学生個々の理解度を確認するために下記に変更した。

文法説明→例題→演習問題→穴埋め課題(その場でチェック)

#### ①進め方

一人で取り組ませた後、隣席の学生と協力して課題に取り組みさせる。その後、穴埋め箇所を学生に答えてもらう。

・隣接の学生同士でやることのメリット:学生同士で課題の理解を深めたり、新たな視点を得たりすることができる。

・穴埋め方式にすることのメリット:1つの設問に必ず1つの明確な正解があるため、学生の理解度をスコアとして表すことができる。まさしく、評価を測ることができる。

#### ●今後の進め方

Webプログラムに関連する科目において、学生個々の理解度をデータ化(スコア)するために、穴埋め方式での課題を何度か繰り返し、担当教員同士で共有する。さらにそこから、難易度の異なる問題を実施する。

Webデザイン科の現1年生は、38名中15名が留学生です。業界ではグローバルな人材が求められている中で、留学生を受け入れている求人が少なく、留学生の就職は毎年苦戦している状況です。そこで、留学生の就職率が向上するための施策を検討しています。これまで本科では、留学生のためのイベントとして、下記の特別イベントを実施しています。

・留学生&卒業生の交流会:留学生全員参加(6月9日実施)

・本校同窓会主催の異文化作文コンテスト:留学生全員参加(10月学園祭に合わせて実施)

本科の留学生全員が、語学力や専門性を活かして日本で働きたいと希望していますが、学校の求人票でも留学生採用枠が狭く、留学生同士で狭い枠の競争となっているのが現状です。

企業側が留学生に期待する能力やスキル、必要な日本語能力、さらに留学生のアプローチの仕方、学科として企業に働きかけるきっかけになるような施策があれば教えてください。

### 【ご意見】

・留学生の採用を積極的に行うために、留学生を受け入れるための人事考課や福利厚生、留学生に適した手続きやサポートを提供できるように体制を整えている会社も多くなってきている。

・グローバル企業や海外事業展開を目指す企業を集めて就職先のマッチングを行ってはどうか。

・人と人との出会いの場(機会)をつくることが必要で、そこから学生と会社が繋がると思う。

**【活用状況】**

今回のご意見を受け、留学生の入学が今後ますます増加する可能性がある中で、学科内で下記の4項目を検討し実施している最中です。

- ① 留学生が就職活動を進めやすくするために、言語サポートや履歴書の書き方、面接の対策など留学生向けのキャリアサポートをキャリアセンターと担任で実施しています。
- ② 留学生採用をしている企業、今後考えている企業に対して、採用プロセスをどのように組み込んでいるかを明確にし、本科の留学生にしっかり説明し伝える必要があると考え、今年度の卒業制作展をきっかけに3月4日～6日までを1年生のための就職Weekとし、5社の企業に留学生採用も含めて説明会を実施する予定です。
- ③ 留学生を採用していない企業にも、留学生ビザや雇用に関する制約など法的な要件を説明する必要があると感じていますが、これはキャリアセンターに相談しています。
- ④ 次年度も17名の留学生が本科に入学予定です。次年度も継続して卒業生(留学生)と在校生の交流イベントを6月に実施予定です。(卒業生の就職の実例の共有・ネットワーキング機会・質疑応答の機会を設けるなど)

**2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係**

**(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針**

Web業界で活躍できるWebクリエイター育成のために、下記を踏まえた実習を企業と連携して行い、Web業界で必要なディレクションやWeb制作技術などの実践的能力を養うことを基本方針とする。

- ① クライアントの要望をヒヤリングするためのオリエンテーションから企画制作、モックアップ(外観デザインの試作)、最終の各段階で企業へのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力の向上につなげる。
- ② クライアントの要望に応じた企画立案ができるように、授業と実習を通してWeb制作会社で行われているマーケティング・調査分析の仕方について実践的な知識を習得する。

**(2) 実習・演習等における企業等との連携内容**

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① Web制作企業から実案件(クライアントの要求)を元に課題が提示され、Webワークフローの基づいて、企画提案・モックアップ制作・Webサイト実装・プレゼンテーションの実務能力を学ぶ。企画・モックアップ、実装、最終のフェーズごとにクライアント企業様にプレゼンテーションを行い、企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。
- ② コミュニティサイトを運営する企業から既存サイトを使った課題が提示され、ユーザビリティ評価、マーケティング観点より既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。

**(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。**

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	<p>Web制作企業複数から実案件(クライアントの要求)を元に下記の課題から1人1課題を選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新商品発売キャンペーンのランディングページ制作</li> <li>② ヘッドスパ バザルトストーン専門店-TIRA- スペシャルサイト制作</li> <li>③ スポーツ日程掲載サービス「スポカレ」ランディングページ制作</li> <li>④ ourly 新規ユーザー獲得ランディングページ制作</li> <li>⑤ その他</li> </ul> <p>企画・モックアップ・実装までのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。各ステップごとに企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 株式会社ユニッツ</li> <li>② 株式会社COCRIE WORKS</li> <li>③ 株式会社スポカレ</li> <li>④ 株式会社ビットエー</li> </ul>
ユーザビリティ&アクセシビリティ実習	<p>以下の課題に取り組む。</p> <p><b>【課題】</b>            自社運営している事業サービス下記2サイトを元にチームでユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「カラオケパセラサイトのお祝い誕生日コースページ」UI提案  <a href="https://www.pasela.co.jp/birthday/">https://www.pasela.co.jp/birthday/</a></li> <li>② 「カラオケパセラサイトの#本人不在の誕生日会ページ」UI提案  <a href="https://www.pasela.co.jp/oiwai/">https://www.pasela.co.jp/oiwai/</a></li> </ul> <p>最終プレゼンでは、学生8チームより、課題①②のUI提案について、プレゼンテーションを行い、企業から評価アドバイスのフィードバックを受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 株式会社NSグループ</li> </ul>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教育課程編成委員会での意見やWeb業界の動向等を踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能及び、教授法や教育的資質に関する下記①～③等の研修を、教員研修規程に則って行う。これまでは、Web制作関連団体が行っている研修の受講が主であったが、将来はWeb制作会社や団体から講師を招いたものや教員がWeb制作企業内で制作業務を担当するなど、Webデザイン科独自の研修なども計画的に行う。	
①今後も益々利用者のネット環境が多様化・複雑化しているなかで、ユーザーに最適なWebサイトを制作するのに必要な最新の知識、技術、技能に関する研修。	
②多くのWeb制作会社が注目しているユーザーが体験を通して新しい価値を生み出す「ユーザエクスペリエンス」の必要性と、それらを向上するための知識、技術、技能に関する研修。	
③変化する学生(気質)に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習(ファシリテーションスキル)等の教育的資質に関する研修。	
(2) 研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: SDGs講座セミナー	連携企業等: プライムアカデミー
期間: 令和5年4月～令和6年3月	対象: 学科教員
内容: SDGs17のゴールについての知識。SDGsをビジネスに活かす。都市の抱える諸課題、社会が抱える課題について修得する	
研修名: Webユーザビリティ/UX	連携企業等: 株式会社ミツエーリンクス
期間: 令和5年5月23日	対象: 学科教員
内容: ユーザビリティやUXの基本的な考え方や具体的なWebサイトの事例について学ぶ	
研修名: 2024年のWebデザイントレンド 解説セミナー	連携企業等: 株式会社ミツエーリンクス
期間: 令和5年12月19日	対象: 学科教員
内容: エンジニア視点から注目のデザイントレンド/デザイナー視点から注目のデザイントレンド	
研修名: ビジネスマンのためのサッと伝えるイラストの描き方	連携企業等: 株式会社ベネッセコーポレーション
期間: 令和6年3月7日	対象: 学科教員
内容: ロジカルに説明できるためのイラストの描き方を修得する	
研修名: 創造力、発想力を高める: デザイン思考の基本マスター	連携企業等: 株式会社ベネッセコーポレーション
期間: 令和6年3月8日	対象: 学科教員
内容: 革新的なアイデアを生むためのデザイン思考の基本を修得する	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 「教授法研修」	連携企業等: 株式会社ビーフォーシー
期間: 令和5年8月3・10日	対象: 新人教員
内容: 授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。	
研修名: 「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等: 株式会社ウチダ人材開発センタ
期間: 令和5年8月22日	対象: 新人教員
内容: 授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。	
研修名: 「アカデミックハラスメント」	連携企業等: 名川・岡村法律事務所
期間: 令和5年9月1日	対象: 全教員
内容: 学生に対するハラスメントと実際の裁判例から学ぶハラスメントの具体例	
研修名: 「高等教育における ChatGPTなど生成AI の活用」	連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo
期間: 令和5年9月14日	対象: 全教員
内容: 高等教育における生成AIの活用方法と事例について	

研修名:	「心理的課題を抱える学生の初期対応」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年3月26日	対象:	全教員
内容	心理的課題を抱えた学生の初期対応をテーマに、対応方法を事例を交えて実践的に学習する。		
<b>(3) 研修等の計画</b>			
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>			
研修名:	デザイン思考、UI・UX、サービスデザイン	連携企業等:	株式会社ビビビット
期間:	令和6年9月	対象:	学科教員
内容	Webサイト制作の上流工程に必要な知識、Web・UX・UI・製品・サービスのデザインに使えるデザイン方法の習得する。		
研修名:	マーケティング、ブランドコミュニケーション	連携企業等:	広告宣伝会議
期間:	令和6年9月	対象:	学科教員
内容	マーケティング思考の本質について習得する。		
研修名:	SDGsを意識した持続可能な社会に向けた取り組み	連携企業等:	一般社団法人イマココラボ
期間:	令和6年10月	対象:	学科教員
内容	SDGs de 地方創生 公認ファシリテーターの取得、SDGsファシリテーター認定の取得について学習する。		
研修名:	Webのトレンド、先端技術	連携企業等:	株式会社ミツエーリンクス
期間:	令和6年12月	対象:	学科教員
内容	エンジニア視点から注目のデザイントレンド/デザイナー視点から注目のデザイントレンド		
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和6年8月7・9日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年8月20日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「休退学防止策」	連携企業等:	株式会社WENESS
期間:	令和6年8月29日	対象:	全教員
内容	理論的根拠と実践例を基に、休退学者を出さない基盤づくりを学習する。		
研修名:	「多層化する専門学校生を読み解く」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年9月19日	対象:	全教員
内容	専門学校の入学者層データを基に、休退学防止策を検討する。		
研修名:	学生指導の充実を図る	連携企業等:	独立行政法人 日本学生支援機構
期間:	令和6年9月	対象:	学科教員
内容	現代学生の心の問題・成長支援に関する課題やニーズの理解を深め、学生の心のセーフティネットの更なる充実を促進することを目的として「心の問題と成長支援ワークショップ」		
研修名:	留学生に対する接し方の改善、向上	連携企業等:	公益財団法人 国際人材協力機構
期間:	令和6年6月	対象:	学科教員
内容	外国人材に対して歩み寄り、相手の理解度に合わせて話し方を変える、伝えたい情報を「見える化」することで効果的なコミュニケーションを行う		
研修名:	学習支援の方法を学ぶ	連携企業等:	こども発達支援研究会事務局
期間:	令和6年5月～7月頃	対象:	学科教員
内容	LD(学習障害)の理論と学習支援		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、画像情報関係団体、地域住民、Web制作企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やWebデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、Webデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・教育人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導體制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導體制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍による活動制限は仕方がないが、今後はその状況を踏まえた教育の在り方を考える必要があり、コロナ禍を理由にした教育活動の停滞を避けなければならないとの指摘を受け、下記の対応を行った。

教育的成果の向上に繋げるため、様々な感染症対策を講じた上で対面による教育活動へ戻す学事計画とした。また、遠隔授業の利点を活かした教育も継続し、今後の感染症禍にも対応できる授業体制とした。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
篠原 たかこ	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
中山 秀昭		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	保護者
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	保護者
福田 るあ		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
渡邊 紗羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
江藤 海羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生
蔡 ダウム		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新



授業科目等の概要

(工業専門課程 Webデザイン科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行う。 ① キャリア（職業人生）を理解して就職活動の動機を得る。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール（文章・台本）に仕上げる。 ③ 就職活動に必要な各種情報を得る。	1前	30		○	△		○			○	
2	○		企画書制作&プレゼンテーション	目的に沿ったリサーチから発表までを通じ、企画書の作り方とコミュニケーション手段としてのプレゼンテーション手法を学ぶ。	1前	60		○	△		○			○	
3	○		Webデザイン技法	Webサイトを作る上で必要なサイトの種類や特徴、サイト設計、情報整理、ページデザイン、画像と色彩、レイアウトなどの基本的なWebデザイン知識を学ぶ。	1前	30		○	△		○		○		
4	○		チーム制作 I	信頼や責任を基本にメンバーシップとしてのチームへの関わり方を学びます。チームで主体的に高めるスキルを修得します。	1前	30		○	△		○		○		
5	○		HTML&CSS実習	W3C規格に準拠したHTMLコーディングを理解し、Webサイトを制作する。 Web標準実装の際に抑えておくべきポイントやノウハウ、サイト作成ソフトウェア（Dreamweaver）の活用テクニックを習得する。 (使用アプリケーション： Atom, SublimeText, Dreamweaver)	1前	120		△		○	○			○	
6	○		色彩演習	ヴィジュアル表現における色の役割や色彩に関する基礎的な知識を身につけ、感情や状態を色で表す演習等を行う。色彩検定の取得を目指す。	1前	30		○			○			○	
7	○		UI・UX実習	ペイント系ソフトウェア（Photoshop）の基本操作を習得し、フォトタッチやWeb画像素材の制作、Webページデザインの制作を行う。また、ドロー系ソフトウェア（illustrator）の基本操作を習得し、ベクトル画像の制作について習得する。	1通	120		△		○	○			○	
8	○		JavaScript実習	ブラウザ側で動作するプログラミング言語であるJavaScriptを用いてプログラミングの基礎を学び、ページを動的に表現する演習を行う。 JavaScriptを使ったWebページにあるふるまい（動き）の作成方法やJavaScriptライブラリーの活用方法について学ぶ。	1通	90				○	○		○		

9	○		イラストレーション	イラストを描く上での基礎的な画材や紙の扱いを学習し作品を制作する。さらに平面や立体など既成概念にとらわれない様々な技法を学び、オリジナリティーあふれる作品の制作を目指す。	1通	60		△	○	○	○								
10	○		サイト設計	Webサイト構築のワークフローと、Webサイトを制作する過程でつくられる各種ドキュメントの作り方について演習を通して学ぶ。	1後	30		○	△	○	○								
11	○		Webアプリケーション制作 I	HTML&CSS&JavaScriptを使ったWebアプリケーションの作り方を学ぶ。HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用。	1後	30				○	○							○	
12	○		情報デザイン I	人間中心デザインの考え方に即したWebデザイン設計をワークショップ形式で学ぶ。人間中心設計の概念やプロセスを学び、人間中心デザインに関するさまざまな手法の理解と実践方法の修得を目指す。発想からコンセプトデザイン手法、コンセプトやユーザー評価の方法まで、体系的に、演習を通して実践的に学ぶ。	1後	90				○	△	○							○
13	○		進級制作	連携しているWeb制作会社から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、オリエンテーションから企画、制作、プレゼンテーションまでの一連の流れを学習する。Webワークフローを通して、実務能力・技術力・表現力を身につける。	1後	120		△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	○		写真撮影・映像演出技法	カメラの使い方、写真撮影に関する知識を学び、広報誌やWebサイトに使用される写真を撮影するための実践的なテクニックを学ぶ。	1後	60		△		○	○								○
15	○		Webライティング技法	Web媒体を活用した伝わる文章を理解しライティングスキルの必要性を理解する。読者にとって読みやすい文章、わかりやすい文章の書き方について演習を通して学び、人に伝わる文章を学習する。	2前	30		△	○		○								○
16	○		Webアプリケーション制作 II	Webアプリの企画から制作をチームで行う。ソースコードなどをチームで履歴を共有し制作するためにGitサービスを利用する。 HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用してWebアプリを制作。	2前	90					○	○							○
17	○		情報デザイン II	①情報デザイン試験の取得を目指す。 ②インタフェースおよびインタラクションのデザイン手法について学ぶ。	2前	60				○	△	○							○
18	○		チーム制作 II	目標達成に向けてメンバーを率先垂範する「リーダー」としての役割を学び、チームマネジメントのあり方をワークを取り入れながら実践的に学びます。	2前	30		○	△		○								○
19	○		ユーザビリティ&アクセシビリティ	企業課題をチームで問題解決を行う。 ① ユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ② 視覚障害者支援団体の協力を受けて、Webアクセシビリティの現状と問題点の理解を深める。 ③ UXを考慮したサービスデザインの提案	2前	150		△		○	○								○

20	○		サーバーサイドプログラミング I	サーバーサイドプログラムであるPHPプログラムをPCで動かすための環境を整え、掲示板等を作りながらPHPプログラミングについて学ぶ。同時にデータベース(MySQL)を使った実践的な課題を行う。(Apatch, PHP, MySQL)	2 前	60				○	○	○					
21	○		卒業制作	2年間の集大成として、Webを商用で必要としている企業や店舗、学校などをクライアントとし、学生個々の制作ジャンル(Webサイト、スマートフォンアプリ、Webシステム、ゲーム等)に沿った作品を制作する。クライアントの要求に応じて、事前調査、コンセプトメイキング、企画書制作、ユーザービリティ評価、確認、納品、最終プレゼンなど、実践的なWebクリエイターとして、一連の制作工程を踏まえた制作を行う。	2 後	150				○	○	○					
22	○		関連法規	Webデザイナーに必要な法律知識を学ぶ。著作権をはじめとする知的所有権、個人情報法、刑法の業務妨害などについて、報道等で取り上げられた裁判の事例を交えて学ぶ。	2 後	30			○		○	○					
23	○		Webマーケティング	Webマーケティングを取り巻く外部環境・市場動向や、ソーシャルメディア連携などによるWebマーケティング、企業におけるソーシャルメディアの活用方法などWebサイトの戦略的なビジネス活用について学ぶ。	2 後	30			○		○						○
24	○		Webディレクション	スケジュール管理、リソース管理、コスト管理、運用管理などを含めて成果を上げるディレクションの仕方について学ぶ。	2 後	30			○		○						○
25	○		広告デザイン	印刷メディアの広告表現デザインや、CMなどの広告映像の表現、Webを使った広告表現など実際の広告具体例を見ながら広告の表現技術を学ぶ。	2 後	30			○		○						○
26	○		サービス運用	解析ツールを活用しながら、アクセス状況の分析の仕方を修得し、Webサイトの価値向上と運用効率の向上などの提案ができる実務能力を学ぶ。	2 後	60			○	△		○					○
27	○		サーバーサイドプログラミング II	CMSツールWordPressをサーバーにインストールする方法から、サイト構築のやり方を実践的に学ぶ。また、CakePHP、Laravelを使って簡単なオブジェクト指向スクリプト言語を習得する。	2 後	60					○	○					○
合計						27	科目	1710 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。